

暮らし向きは3年ぶりに悪化 先行きも悪化見通し

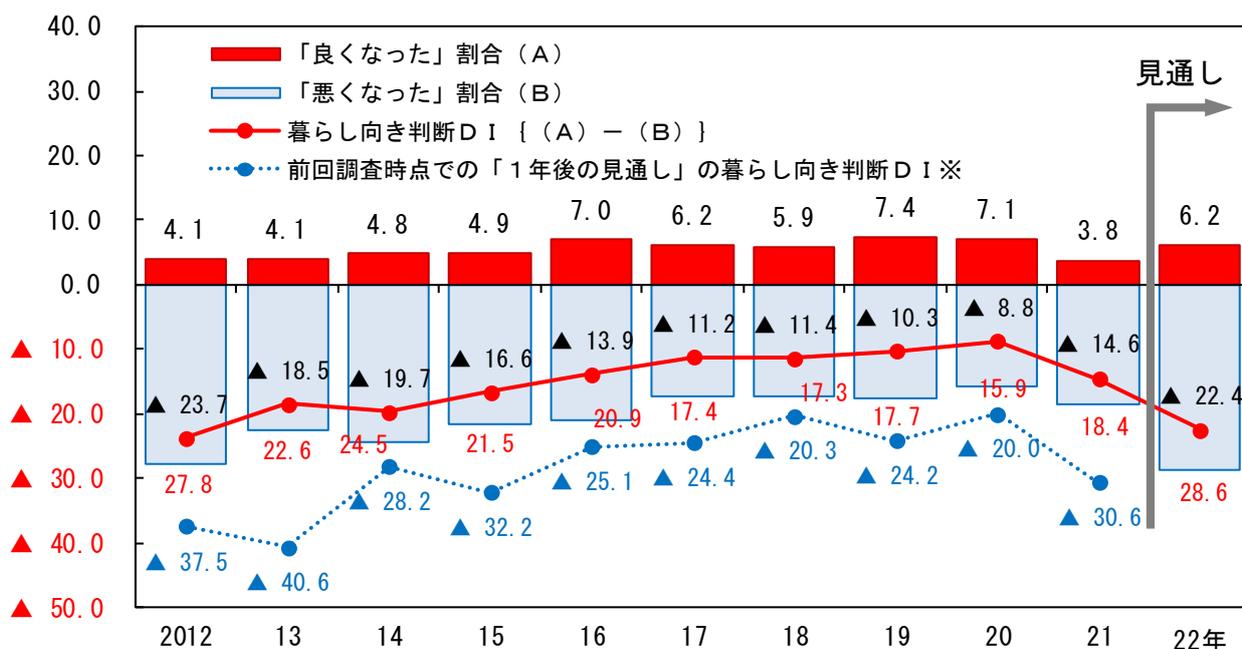
～コロナ禍による支出・収入の減少が暮らし向きに影響～

当行では、このほど山陰地方の消費動向を把握するため、鳥取・島根両県内の消費者を中心にアンケート調査を実施した（調査要領は下記参照）。

足元（2021年11月）の暮らし向きについて尋ねたところ、1年前に比べて「良くなった」が3.8%、「悪くなった」が18.4%となり、「暮らし向き判断DI（「良くなった」割合－「悪くなった」割合）」は前回調査比5.8ポイント減の▲14.6と3年ぶりに低下した。

なお、先行き（2022年）の「暮らし向き判断DI」は、7.8ポイント減の▲22.4と2012年以来の低い水準となった。

図表1. 暮らし向き判断DI（「良くなった」割合－「悪くなった」割合）の推移



※例：2021年の▲30.6は、2020年11月時点での「1年後（2021年）の暮らし向き判断DI」を示す。

【調査要領】

1. 期 間 2021年11月1日～11月19日
2. 対 象 鳥取県・島根県の在住者
3. 調査方法 当行の山陰両県内本支店の店頭にてアンケート用紙を配布し郵送で回収（またはWebで回答）
4. 回 答 数 配布数2,480枚、有効回答数584（回収率23.5%）
5. 回答者構成比 10・20代6.2%、30代13.0%、40代27.1%、50代以上53.5%、不明0.2%

〔調査結果の概要〕

1. 暮らし向き

○足元（2021年11月）の「暮らし向き判断D I」は前回調査比5.8ポイント減の▲14.6と3年ぶりに低下した。先行き（2022年）は▲22.4と2012年（▲23.7）以来の低い水準となった。

2. 総収入の動向

○「総収入判断D I」は前回調査比2.3ポイント減の▲10.9となり、2年連続でマイナスとなった。

3. 消費生活の動向

○「消費支出額判断D I」は前回調査比2.1ポイント増の24.4と、2年ぶりに前回調査を上回った。

○消費生活の水準（満足度）は前回調査に比べて低下した。

4. 今後の家計の重点

○堅実姿勢が続くなかで「健康増進」や「貯蓄の充実」などが上位となった。

○若い世代以外でも「レジャー・娯楽」が上位にあり、自粛生活を続けるなかでも余暇活動への興味・関心が強い様子が見えられた。

5. 家計支出の動向

○この1年間で特に支出が増えた費目のうち、最も回答割合が多かったのは「食料・外食費」だった。一方、特に支出が減った費目のうち、最も回答割合が多かったのは「旅行・レジャー・娯楽費」だった。

○今後1年間で特に支出を増やしたい費目のうち、最も回答割合が多かったのは「旅行・レジャー・娯楽費」だった。一方、特に支出を減らしたい費目のうち、最も回答割合が多かったのは「水道・光熱費」だった。

6. 貯蓄動向

○全体では「増加した」が「減少した」を上回った。

○貯蓄残高は『500万円未満』が5割強を占めた。

7. 雇用に対する不安

○50代以上で『不安がある』が上昇した。

8. 新型コロナのワクチン接種が一巡した後の消費活動について

○新型コロナウイルスのワクチン接種が一巡した後でやってみたい消費活動（複数回答3つまで）として最も回答が多かったのは「国内旅行に出かける」だった。

○消費活動について想定される支出金額は、「5万円以上10万円未満」が最も多かった。